

## 主婦層を対象とした家事行動に関する調査

## － 洗濯を事例とした意識と行動実態 －

○小日向知子 小林衣子 武井玲子 肥後盛明  
ライオン（株）

【目的】若者の家事行動を調査する一環として「ひとり暮らしの大学生を対象とした洗濯実態調査」の結果、洗濯などの家事情報の入手先としては「家族」が最も多いことが明らかとなった。

そこで家事情報の伝達方法についてより深く掘り下げて考察をするため、彼らの情報入手先である「家族」（主として主婦）を対象として、代表的な家事のひとつである「洗濯」に対する意識と行動実態について調査を行った。

【方法】全国の家庭科学研究所のモニターより、30代の子供を持つ主婦（以下若い主婦と略す）、大学生の母親に当たる40～50代の主婦（以下ベテラン主婦と略す）、それぞれ約120人を対象に留置・自記入により、アンケート調査を行った。

【結果】ひとり暮らしの大学生（以下学生と略す）と若い主婦、ベテラン主婦の洗濯行動実態を比較した結果、年齢が若いグループほど、衣類の種類別の手入れ方法が手洗いから洗濯機へ移行していた。衣類の取扱い絵表示や洗濯知識・理解度は若い主婦がベテラン主婦よりも高かった。また、ベテラン主婦が子供に自信を持って教えられる衣類の手入れ方法は、20項目中50%以上の方が自信があるのはわずか6項目であり、学生側の期待度との間には差が認められた。